日本グループ・ダイナミックス学会会報

ぐるだい JGDA ニュース

The Japanese Group Dynamics Association

http://www.groupdynamics.gr.jp/

第 61 号

(2022 年 8 月 17 日)

発行所： 東洋大学　北村英哉研究室
日本グループ・ダイナミックス学会
E-mail：sec-general@groupdynamics.gr.jp
発行人：北村英哉　　編集担当：藤村まこと

目次

学会の新しい取り組み 2
日本グループ・ダイナミックス学会　第 68 回大会開催の挨拶 3
白樫三四郎先生を偲んで 6
国際化支援 8
　国際学会発表支援制度 8
　AASP 年会費特別割引 8
機関誌『実験社会心理学研究』 9
　投稿論文の審査方針の明確化について 10
事務局からのお知らせとお願い 12
グルダイ学会関係連絡先 16

学会の新しい取り組み

会長　北村英哉(東洋大学)

今期、問題意識として立ち上がったのは、会勢推移を見るなかで、大学院生会員の減少についてであった。学会の将来を考える上でも若い世代の勢力の維持は必須で、学会および大会の活発さにおいてもこうした新陳代謝は重要な要素であろうと認識している。

かつて若手だった会員たちが、今や中堅として研究の屋台骨を支える成長を示し、機関誌への投稿もある程度維持されている頼もしさもあるが、さらに若い世代の参画も求められる。研究について新たな変化・進展をもたらし、学問知見を発展、更新していくためには、こうした活力が必要とされるであろう。大会企画やワークショップ企画なども多様な年齢層が集い、構成していくことが望まれる。

そこで、大学院生などの世代（今はリカレント教育もあるので年齢的に若いことだけにこだわるのではなく、新たにグルダイ研究に参加、加入してくださる人たちと捉えたい）の入会しやすさ、機会を捉えた支援策などに力を入れることにした。

正会員（学生）＝大学院生の年会費を 2000 円と大幅値下げを行い、入会金を廃した。この 2 年あまり新型コロナウィルス感染症の蔓延下で海外学会に行くことが途絶え、渡航費支援が有効に働かなくなった状況を受けて、リモート参加費も支援できるように制度に柔軟性をもたせるようにした。あとの事務局長報告記事にもある通り、大学院生の新入会はやや上向くという効果を早速示し始めた。

これらに伴い財政の健全化にも取り組み、機関誌のオンライン化を進めることにした。予算の有効利用のために、新型コロナ問題について取り組む研究への補助や機関誌での特集なども打ち出して、鋭意審査、編集中となっている。

こうした営みは学会業務を単に引き継ぎ、維持していくだけではない担当常任理事の先生方の積極的な労力を基に実現している。

さらに、現在、学会機関誌への投稿という点においても画期的な改革点を用意しようと準備している。また、査読の方針としても積極採択、サポートに向けて、改めて編集委員長からアナウンスもしていただいた。変わらぬ点としては、アジア社会心理学会との連携を維持し、アジア社会心理学会年会費の割引を行っている。

学会大会への多くの若手の参加を期待し、また変わらず、多様なワークショップを広い世代で企画し、交流を深めたいと考えている。会員の率直な要望や学会に求めることももっと反映したい願いがあるが、なかなか対面で気軽に意見交換する機会を 2 年間持ちにくかったのが残念である。今回も非対面となったが、ぜひ次年度は集って話をしたいものである。まずは今次大会をよろしくお願いいたします。

日本グループ・ダイナミックス学会　第68回大会開催の挨拶

大会準備委員会　事務局長
山口洋典（立命館大学）

長期化するコロナ禍、みなさまいかがお過ごしでしょうか？COVID-19 と名付けられているとおり、2019 年 12 月に初めての感染が発覚した感染症も、次々と確認される変異株により、感染の収束と拡大が繰り返されている状況です。かつてのスペインかぜは、1918 年から 3 年かけて終息に至ったとされていますが、今回のパンデミックにはさらなる時間を要することになるでしょう。無論、そうして求められる時間に対して、ウイルスの生存戦略にどのように向き合っていくかの知恵と、社会がどのように動いていったのかの記録もまた、未来を生きる人々のために求められるところです。

2022 年 9 月 17 日と 18 日に、第 68 回日本グループ・ダイナミックス学会をオンラインにて開催いたします。一時期の収束状況を鑑みれば、少なくともシンポジウムの話題提供者等は一同に会するなどの部分的なハイブリッド開催の開催も探りましたが、1 年の順延を経て開催された第 67 回大会において、オンライン開催にあたっての基本的な枠組みを整えていただいたことで、より効果的な大会運営への着実な手がかりを得ることができました。ここに前回の関係者・参加者の皆さまに第 68 回大会の準備委員会を代表してお礼申しあげます。一方で、今回は立命館大学が当番校となるため、対面での開催であれば京都・滋賀・大阪のいずれかのキャンパスで秋に向かう風情の中で知的な対話に花を咲かせただろうと想像しており、そうした楽しみに浸ることができるときを心待ちにしています。

ちなみに第 68 回の特徴は準備プロセスにあると確信しています。立命館大学がホスト役ではありますが、準備委員会は主に関西を拠点とする理事を中心として多彩な人々で構成し、前回大会の終了直後となる 10 月より偶数月の第 2 火曜日の夜にオンラインサロンを展開して参りました。オンラインサロンでは当学会の機関誌「実験社会心理学研究」の読書会の形式を取り、事前に指定した文献の著者を交えて各々の関心のもとで先達の知見を紐解く機会としました。それに

より、1 号通信でも記したとおり、第 68 回大会ではミクロ⇄マクロ、実験⇄実践、生理学的⇄社会学的、など、対概念として位置づけられる両極をダイナミックに往還する場づくりにあたっていくという決意を固めることとしました。

オンラインでの企画ばかりが続いていることもあり、早い段階でのオンライン開催の決断の際には発表者や参加者の減少を懸念したというのが準備委員会としての正直な告白なのですが、結果として開催当初の締切を 1 週間延長したことも奏功し、第 68 回大会は最後の対面開催となった第 66 回の発表種別と同じラインナップで実施できることとなりました。また、初日には常任理事会企画として数年にわたって行われてきてコラボ・リクエストの意義や価値を改めて確認するシンポジウムが、2 日目には大会準備委員会企画として米国から「ソーシャル・フィクション」をテーマとした特別講演と関連のシンポジウム（同時通訳あり）が、それぞれ目玉として盛り込むことができました。加えて、ホスト校である立命館大学として、現在の仲谷善雄総長が修士論文の執筆の際に当学会を長く牽引された三隅二不二先生の指導を受けていたたことを踏まえ、ホスト校の長が実行委員会を代表して皆さまをお迎えします。ただ、第 67 回大会では奈良の地酒を楽しむことによりオンラインの開催であってもホスト校がある地域の風土に触れるなどの工夫が凝らされた、といった昨年度のような趣向までは至らないかもしれませんが、結果としてホスピタリティに満ちた雰囲気となるよう、丁寧な運営にあたって参る所存です。ぜひ多くの会員の皆さまにご参加いただき、距離を越えて、知の交歓の機会になることを願っています。

--------＜特別講演：Dr. Patricia Leavy プロフィール＞--------

パトリシア・レヴィー博士は、国際的に著名な社会学者・ベストセラー作家。アートベース・リサーチの世界的な推進者として広く知られている。レヴィー博士は「ソーシャル・フィクション」という用語を生みだし、物語を研究手法として学際的に正統化を図る世界的な奮闘を牽引してきた。40 冊以上の本を出版し、ノンフィクション、フィクションの両方で商業的、批評的成功を収め、作品は多くの言語に翻訳されている。最新作は『Re/Invention: Methods of Social Fiction』〔物語の創作力と研究法の刷新：ソーシャル・フィクションの方法〕。既刊により数十の書籍賞を受賞。

近年では『Handbook of Arts-Based Research』〔アートベース・リサーチハンドブック〕が 2018 年 USA ベストブック賞（学術・教育書部門）、『Method Meets Art』〔研究法がアートに出会うとき〕が 2021 年 USA ベストブック賞（芸術部門）、短編小説集『Celestial Bodies: The Tess Lee and Jack Miller Novels』〔輝くものたち：テス・リーとジャック・ミラーの物語〕が 2022 年ファイアーバードブック賞（ロマンス部門）を受賞した。一連の業績に対して、ニューイングランド社会学会（NESA）、アメリカ創造学会（ACA）、アメリカ教育研究学会（AERA）、国際質的研究学会（ICQI）、全米美術教育協会（NAEF）からも賞を受賞している。2018 年にはアメリカ女性殿堂から表彰され、ニューヨーク州立大学（SUNY）ニューポルツ校が「アートと社会正義のためのパトリシア・レヴィー賞」を設立した。　公式ウェブサイト www.patricialeavy.com

【ご参考】オンラインサロンの開催内容（2021 年 10 月～2022 年 8 月、偶数月第 2 火曜日開催）

	日時	テーマ	文献（副題を省略）	話題提供（所属は当時）	登録
1	10/12	実験社会心理学とは	矢守克也(2021)「〈実験社会心理学研究〉に関する研究」実験社会心理学研究 60(2), 63-81.	矢守克也（京都大学）	12 名
2	12/14	社会心理学と社会構成主義	矢守克也(2021)「〈実験社会心理学研究〉に関する研究」実験社会心理学研究 60(2), 63-81. K.J. ガーゲン(著)・鮫島輝美・東村知子(訳)(2020)「関係からはじまる」ナカニシヤ出版	矢守克也（京都大学） 鮫島輝美（京都光華女子大学）	11 名
3	2/8	社会心理の研究法	矢守克也・杉万俊夫(1992)「横断歩道における群集流の巨視的行動パターンのシミュレーション」実験社会心理学研究 32(2), 29-144. 北村英哉(2002)「ムード状態が情報処理方略に及ぼす効果」実験社会心理学研究 41(2), 84-97. 宮本匠・渥美公秀・矢守克也(2012)「人間科学における研究者の役割」実験社会心理学研究 52(1), 35-44.	矢守克也（京都大学） 北村英哉（東洋大学） 宮本匠（兵庫県立大学）	10 名
4	4/12	PM 理論とリーダーシップ	坂田桐子(1992)「リーダーシップ過程の性差に関する研究の現状」実験社会心理学研究 36(1), 114-130.	坂田桐子（広島大学）	10 名
5	6/14	心理学史から見た実験社会心理学	三隅二不二(1978)「日本における実験社会心理学」実験社会心理学研究 17(2), 129-130.	サトウタツヤ（立命館大学）	9 名
6	8/9	当事者を通じて問いを育てる	野波寛・坂本剛・大友章司・田代豊・青木俊明(2022)「NIMBY 問題における当事者はなぜ優位的に正当化されるのか？」実験社会心理学研究 61(2), 57-70.	野波寛（関西学院大学）	6 名

白樫三四郎先生を偲んで

三浦麻子（大阪大学大学院人間科学研究科）

2021 年 12 月 15 日に、日本グループ・ダイナミックス学会名誉会員で大阪大学名誉教授の白樫三四郎先生が逝去されました。学部・大学院時代に社会心理学研究室で白樫先生のご指導を受け、その後は助手として研究室運営をともに担わせていただき、現在は同研究室の教授を務める「後継者」だというご縁で、誠に僭越ながら私が先生を偲ぶ記の執筆をお引き受けしました。

白樫先生は、1936 年 9 月 21 日に福岡でお生まれになり、九州大学教育学部、同大学院教育学研究科を経て、西南学院大学・鳴門教育大学で教鞭を執られた後に、1990 年 5 月に大阪大学人間科学部（以下、人科）に着任されました。私が 3 年生になり、いわゆる「研究室配属」されたのが同年 4 月なので、先生より少し先乗りだったのですが白樫ゼミ 1 期生ということになります。助手の有馬淑子先生、教務職員の古川秀夫先生、後期課程の大学院生だったのが柿本敏克先生と岡本裕介先生、私たち 3 年生が 9 名という陣容でした。実験実習のテキストは末永俊郎先生の『社会心理学研究入門』、講義や演習では社会的手抜きや促進など、状況の力を実証した諸研究について詳しく教えていただき、そもそも集団力学に興味をもって社会心理学を志した私にとっては、まさに求めていたことを学べる環境でした。多くの著名なアメリカの社会心理学者と親しく交流のあった白樫先生ならではの楽しいエピソードを交えた授業は、今もよく覚えています。2017 年 6 月 10 日に開催された第 445 回関西社会心理学研究会(KSP)でご発表になった際の資料をご覧になると、その一端を感じていただけるでしょう。

しかしやはり、白樫先生はリーダーシップ研究、しかも、フレッド・E. フィードラー（白樫先生はいつも敬意を込めた口調で「フィードラー先生」と呼んでおられました）の理論に魅入られた方でした。学生時代もっとも印象的だったのは、3 年生の秋に「卒論で扱いたいテーマ」を発表したときの白樫先生のリアクションです。私が「リーダーシップに興味がある」と口走った途端、といっても翌日ですが、先生のお部屋に呼び出されました。「それならまずこれらの論文を読みなさい」と、ドンと目の前に論文のコピーの山が積まれたのです。それらはすべて、フィードラーの条件即応理論(contingency theory)にもとづく論文でした。私は、決して、論文が「山」だったことや、そのほとんどすべてが英語だったことに気圧されたわけではないつもりですが、「今ここでリーダーシップ研究をするのはやめよう」と即断しました。積まれたのがひとつの理論にもとづく論文だけだったことが、その理論がどんなに優れたもの（だと白樫先生がお考え）であったとしても、私の心づもりとは合わなかったのです。しかし他方では、いかに白樫先生がフィードラーの理論の「とりこ」となっていた(cf: 白樫(2021))かがわかるエピソードだと（今となっては）思います。

白樫先生とフィードラーのリーダーシップ研究との出会い、そしてそれに対する評価は、2017 年に書かれた「フィードラーのリーダーシップ理論とわたくし」3 部作（「文献」のリンクからすべてお読みいただけます）に詳しく書かれています。白樫先生の学部・大学院での指導教員は三隅二不二先生ですが、前出 KSP の報告概要には「学部、大学院を通じて三隅の指導を受け、リーダーシップ PM の初期の研究では三隅の指導を受け入れてきた。しかしその後、状況変数を積極的に考慮しない立場への不満から、しだいに PM 理論から離れていった。」とあります。この不満

を埋め合わせるにふさわしい理論がフィードラーの理論だったということでしょう。三隅先生は「学問的平面はともかく、日常生活面では、全く<社会心理>の感覚がないお人」（人科名誉教授・K 先生による形容）だったそうなので、そんな弟子にどのように対応されたのか。そういえば、既にご退職になった三隅先生が人科にお見えになったことが一度だけありました。その一報を聞いた途端に白樫先生はまるで子どものように、背をかがめ、文字通り頭を抱えて研究室を飛び出してどこかに逃げていってしまわれました（そのせいで？私は三隅先生とお目に掛かる機会は一度もありませんでした）。おそらくは相当なる葛藤のあったらしいお二人ですが、白樫先生を人科にと推挙したのは誰あろう三隅先生だったというエピソードを、名誉教授の M 先生から「したたか飲んだ宴席の帰りがけに三隅さんから握らされたメモを翌朝酔いが覚めてから開くと「白樫三四郎」という名前が書かれていた」という実に具体的な叙述とともに昨年聞いたばかりです。三隅先生は白樫先生を高く評価されていたのだと思います。

それにしても、白樫先生のフィードラー先生への敬慕（あるいは、こだわり）は、師弟関係あるいは共同研究者というのを超えて、それはもうすさまじいものでした。KSP でのご報告は奇しくもその死（2017 年 6 月 8 日）の直後となり、また前出「3 部作」の刊行もそれとタイミングを一にしていて、それを悼むかのような位置づけとなったのはこの愛ゆえの因果かもしれないと思うほどです。そして、白樫先生の手になる文章のうちおそらく最後に公刊されたのは、2021 年 4 月に日本心理学会の機関誌『心理学ワールド』に寄稿された「追悼 恩師フィードラー先生」（白樫, 2021）ではないかと思います。この折に、紙幅の制限ゆえ削除せざるを得なかったエピソードを盛り込んだ「完全版」をお送りいただいたのが、私が白樫先生からご連絡をいただいた最後となりました。今頃はあの世で恩師たちとの再会を果たしておられるでしょうか。三隅先生とフィードラー先生の激論を取りなしておられるかもしれませんね。

本当にお世話になりました。ありがとうございました。

文献

白樫三四郎（2017a）. フィードラーのリーダーシップ理論とわたくし（1） 大阪経大論集, 68(1), 161-174.
白樫三四郎（2017b）. フィードラーのリーダーシップ理論とわたくし（2） 大阪経大論集, 68(2), 109-122.
白樫三四郎（2017c）. フィードラーのリーダーシップ理論とわたくし（3） 大阪経大論集, 68(3), 85-94.
白樫三四郎（2021）. 追悼 恩師フィードラー先生 心理学ワールド, 93, 1.

2020.1.4
人間科学部 17 期生同窓会での白樫先生

国際化支援

常任理事（渉外担当）
五十嵐　祐(名古屋大学)

国際学会発表支援制度

国際学会発表支援制度は、大学院生・若手の会員を対象に、日本国外で開催される国際学会での発表旅費の支援を毎年度行うものです。毎年 7 月末を応募締め切りとしていますが、申請締め切りの時点で発表予定の研究だけではなく、当該年度にすでに発表した研究も支援対象となります。また、他学会の支援制度との重複受給も可能です。

今年度から、制度の改定によって、対面開催の国際学会発表の渡航費支援だけでなく、オンラインでの国際学会発表に対する参加費支援も正式に含まれることになりました。詳細については学会ホームページをご参照いただければ幸いです。

学会 HP：http://www.groupdynamics.gr.jp/support.html

AASP 年会費特別割引について

日本グループ・ダイナミックス学会（JGDA）の会員を対象に、アジア社会心理学会（The Asian Association of Social Psychology; AASP）の年会費が割り引かれます。通常であれば「$35／1 年間」または「$65／2 年間」ですが、JGDA 会員であれば、

・$25 [3500 円]／1 年間（2023 年度）
・$40 [5600 円]／2 年間（2023 年度・2024 年度）

になります（$1＝140 円として計算）。なお、雑誌（AJSP）の郵送を希望される場合は、1 年あたり$35[4900 円] が追加でかかります。

AASP 年会費の特別割引をご希望の方は、以下のフォームから事前に申請を行い、郵便局備付の払込取扱票に必要事項をご記入の上、2022 年 10 月 31 日（月）までに、所定の金額（日本円）をご送金ください（振込手数料はご負担ください）。なお、レートによっては、お振り込み頂いた金額から AASP に年会費を送金した後、残高が生じます。これについては、学会員へのサービス（国際学会発表支援制度や国際化支援制度（英文校閲）など）の財源としてあてさせていただく予定です。あらかじめご了承下さい。

■事前申請フォーム（グルダイの会員番号が必要です。不明な場合は事務局にお問い合わせ下さい）
https://docs.google.com/forms/d/1YkIPAcUlW--4aWY0UuF8XoczmvjrEAbzueby09Bs5v8/
※振込先情報は、申請後に送られるメールに記載されています。

AASP への入会手続きは、システムの都合上随時行うことができず、期日までにご送金いただいた方を対象に、JGDA 学会事務局経由で取りまとめて行います。よろしくお願いいたします。

機関誌『実験社会心理学研究』について

編集委員長　坂田桐子（広島大学）
副編集委員長　中島健一郎（広島大学）

現在、特集企画「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とグループ・ダイナミックス」の編集作業を進めております。その中で、早く会員のみなさまにお届けしたい気持ちが強くなっております。きっとみなさまのご期待に沿える論文を発表できると思いますので、もうしばらくお待ちいただければ幸いです。

編集委員会では「論文を評価するのは読者であり、その機会を作るのが仕事」という精神のもと、できるだけ多くの論文を発表できるようサポートすることを大事にしております。これが可能なのは、ひとえに論文を投稿してくださっている会員のみなさまと、審査に協力してくださっている査読者のみなさまのおかげです。心よりお礼申し上げます。

今後も読者のみなさまの幅広いニーズに応えることを目指し、多くの論文をお届けできるよう努めたいと思います。引き続き、実験社会心理学研究をよろしくお願いいたします。

実験社会心理学研究 2022 年度 62 巻 1 号 掲載予定論文

（2022 年 9 月発行予定）

原著論文

■渡辺　匠・唐沢かおり（5/3 早期公開済）
　素朴な自由意志信念尺度の開発

■安藤香織・竹橋洋毅・梅垣佑介・田中里奈
　新型コロナウイルス感染症のリスク，不安は誰が感じているのか
　：性別、年代、情報接触の影響に着目して

資料論文

■向井智哉・湯山　祥
　刑罰の正当化根拠尺度（JPS）と短縮版尺度（S－JPS）の作成

Short Note

■Rina Tanaka, Hiroki Takehashi
　The psychological impacts of nudge-based evacuation advisories

投稿論文の審査方針の明確化について

編集委員長　坂田桐子（広島大学）
副編集委員長　中島健一郎（広島大学）

会員の皆様には、日頃より『実験社会心理学』の誌面の充実にご協力いただき、感謝申し上げます。お陰様で、2021 年 1 月～2022 年 6 月現在までの原著・展望・資料論文については、受稿から平均 12.6 カ月、平均 4.3 稿目（Short Note については受稿から平均 6.4 カ月、平均 4 稿目）で掲載決定となっており、概ね迅速な審査が実行されております。

しかし、近年、学会員ではない先生方に副査をお願いするケースが増えていること、また平均的には迅速な審査が行われているものの、中には改稿回数が 5 回以上になるものがあることなどの状況を踏まえ、この度、論文審査の方針を明確化し、審査者間で共有することと致しました。この方針は、編集委員会の先生方のご承認を得ております。

会員の皆様にもその「論文審査の方針」を共有させていただきます。審査の迅速化は、投稿論文の著者と審査者の双方で実現するものだと思いますので、双方が審査方針を共有することで、迅速かつ有益な審査を実現できることを願っております。今後も会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

＝＝

論文審査及び審査コメント作成の指針

１．審査の方針

『実験社会心理学研究』編集方針・編集体制第 1 章第 1 条に書かれている「目的と理念」によると、『実験社会心理学研究』の刊行目的は「国内研究の醸成と活性化」にあります。そのため、科学論文として多少の弱点があったとしても、ユニークな着想や実験的・挑戦的な試み、学術的・社会的に貢献可能な点があれば、それをできるだけ世に出し（掲載する）、読者の評価や議論を喚起することが重要と考えます。また、投稿から掲載までの期間をできるだけ短くする（迅速に世に出す）ことも重要です。

したがって、『実験社会心理学研究』の審査にあたっては、「改稿を重ねて完璧な論文にすること」を目標とするよりも、「掲載可能なレベルの論文を迅速に世に出すこと」を目標とすべきと考えます。「掲載可能なレベル」の判断基準は審査者によって異なると思いますが、「完璧な論文でなければ掲載できない」わけではありません。些細なミスも含め、論文の内容に関する責任は著者にあり、論文の価値判断は読者に委ねられます。

審査者の役割は、大局的な観点から論文の新規性・独創性や有用性を見極め、掲載の可否を判断することです。論文を完璧なものにするよう指摘・助言するのではなく、掲載可となる最低限の条件を明確に示してそれが達成できたかを判断することを基本とします。

２．審査にあたってご留意いただきたい点

(1) 審査前に、『編集・審査規程』第 13 条をご確認ください。
(2) 論文を減点法で見るのではなく、良い点を積極的に評価してください。
(3) 『編集・審査規程』第 13 条（1）にある通り、初稿の段階で論文の問題点を可能な限りすべて指摘してください。ただ問題点を指摘するだけでなく、「掲載可となるための最低限の条件」（どの部分がどのように改善されれば掲載可になるか）が明確に著者に伝わるようにご配慮ください。「完璧な論文にするための条件」ではありません。初稿の段階で論文の主旨が明確でなく、掲載可となるための条件を示せない場合は、どの点を明確化すべきかを具体的にご指摘いただき、2 稿目以降で（主旨が明確になった後で）掲載可となるための条件を示してください。
(4) 『編集・審査規程』第 13 条（3）にある通り、審査コメントは必ず「重要事項」と「参考事項」に分けて示してください。「重要事項」には掲載可となるために最低限クリアすべき課題を、「参考事項」にはたとえ著者がその通りに修正しなくても掲載可・不可判断には影響しない事項を示してください。例えば、「完璧な論文に近づけるため」の指摘や助言を行う場合は「参考事項」に記載していただくなど、両者を明確に区別してください。日本語表現を洗練するための指摘についても「参考事項」に記載していただきますよう、お願いいたします。
(5) 「掲載可となるための最低限の条件」は、できるだけ後から変えたり条件を追加したりしないようご留意ください。原則として、初稿で示した条件をクリアできれば掲載可と判断してください。
(6) 「問題のある研究実践（QRPs)」を促すコメントにならないよう、ご留意ください。
(7) 掲載の見込みがある論文の場合、遅くとも 4 稿目で「そのまま掲載」に至ることを目標としてください。

事務局からのお知らせとお願い

事務局長　尾崎由佳（東洋大学）
広報担当　藤村まこと（福岡女学院大学）

冒頭の「新しい取り組み」にもありますように、学会の将来を支える若い世代をサポートし、学会全体をさらに元気にしたい！という思いで、今期（2021-2022 年度）のさまざまな改革に取り組んでまいりました。会費改訂により、正会員（学生）の年会費を大きく引き下げたことも、その一環です。喜ばしいことに、さっそく良い反響があり、昨年 8 月から現在までの一年間に、22 名の正会員（学生）が新たに入会されました。フレッシュな皆さんをおおいに歓迎いたします。これまで年々減少傾向にあった正会員（学生）の総数も増加に転じ、当学会の将来的な発展に向けて、希望の光が見えてまいりました。今後も、若い年代層の会員がアクティブに活躍することによって新たな風が吹き込み、その結果として学会全体が活性化していくような、躍動感のある学会運営と環境づくりを目指したいと願っています。

会員の皆さま方におかれましては、是非、各種の学会活動に積極的にご参加いただくとともに、当学会の提供する様々な支援制度についてもご活用くださりますよう、お願い申し上げます。

会員異動

（2021 年 8 月 17 日～2022 年 8 月 4 日）

新入会員：27 名

■正会員（一般）

與久田　巌	前田　洋光	田中　理菜	一宮　剛	伊藤　文人

■正会員（学生）

坪井　祐樹	木野村　隆宏	森川　華帆	内　水吟	濱田　龍
賈　琴	小藤　大洋	コウ　ビヨウ	楊　榛	楊　凌煙
静木　銀蔵	柿本　航哉	尾崎　幸平	湯山　祥	田中　里奈
柳田　航	滝口　雄太	西村　由貴子	大坪　快	池谷　彩希
靳　佳穎	貴堂　雄太			

退会会員：29 名

■名誉会員

白樫　三四郎

■正会員（一般）

山口　司	藤井　貴之	岩脇　三良	原島　雅之	小西　美智子
友野　聡子	鈴木　伸哉	西谷　成昭	川名　好裕	小嶋　正敏
朴　賢晶	湯田　彰夫	松本　芳之	遠藤　由美	山口　浩

■正会員（学生）

貴島　侑哉	柳　学済	廣瀬　竜太郎	飯島　千咲	阪本　怜亮
堂園　安奈	横井　良典	大橋　卓真	王　瑋	岡田　真波
伊藤　言	高田　治樹	エトウ・ジョナサン		

■学会 web サイトの URL が変わりました。

新 https://groupdynamics.gr.jp　　旧 http://groupdynamics.gr.jp

旧アドレスにアクセスした場合は自動的に新アドレスへ移動します。

■会報に企業広告を掲載します。

機関誌のオンライン化に伴い、企業広告を会報にも掲載することになりました。

皆様、どうぞお目通しのほどよろしくお願いします。

心　理　学　評　論

Vol. 65（2022）の発行予定

No. 1　2022 年　8 月　**特集：心理学と人類史研究の接点**
No. 2　2022 年 10 月　一般論文
No. 3　2022 年 12 月　**特集：伴侶動物のこころを探る**
No. 4　2023 年　2 月　一般論文
年間 4 冊発行し，購読料は個人予約に限り 8,000 円，機関の場合は 15,000 円です。

Vol. 64, No. 4（2022 年 3 月発行）

論　　文

榎本聖香・安達友紀・佐々木淳
慢性疼痛患者の過活動に関する研究動向

特集：マインドフルネス再考（2）　　編集：伊藤義徳・杉浦義典・佐藤　徳

伊藤義徳・杉浦義典・佐藤　徳
マインドフルネス再考（2）

第 III 部　関連する心理療法理論から見たマインドフルネス

（1）第 3 世代の認知行動療法

酒井美枝・武藤　崇　　アクセプタンス & コミットメント・セラピー（ACT）から見たマインドフルネス

井合真海子・宮城　整・山崎さおり・松野航大・片山皓絵・成瀬麻夕・野網　惠・遊佐安一郎
弁証法的行動療法におけるマインドフルネス

今井正司　　メタ認知療法から見たマインドフルネス

熊野宏昭　　第 3 世代の認知行動療法の治療原理とマインドフルネス

（2）マインドフルネスと関連する心理療法

北西憲二　　森田療法から見たマインドフルネス

池見　陽　　フォーカシングとマインドフルネスの現状と展望

菅村玄二　　構成主義セラピーからみたマインドフルネス

坂入洋右　　西洋的療法と東洋的行法：科学・宗教・実践における 2 種類のパラダイム

第 IV 部　マインドフルネスの未来

佐渡充洋・二宮　朗・朴　順禮・田中智里・小杉哲平・田村法子・永岡麻貴・山田成志・藤澤大介
精神科医療およびメンタルヘルスにおけるマインドフルネス療法の意義と未来

池埜　聡　　位相的観点から見通すマインドフルネスの新展開：社会正義の価値に資する方法として

国里愛彦・山本哲也　　マインドフルネス研究の未来を切り開く新たな方法論

越川房子　　マインドフルネスの今―そしてこれから

心 理 学 評 論 刊 行 会

〒606–8501　京都市左京区吉田本町　京都大学文学部心理学研究室内
TEL: 075–753–2753　FAX: 075–753–2835
E-mail: hyoron@psy.bun.kyoto-u.ac.jp
http://www.sjpr.jp/
郵便振替：01080-7-1208

北大路書房

〒603-8303　京都市北区紫野十二坊町12-8
☎075-431-0361　FAX 075-431-9393
https://www.kitaohji.com（価格税込）

モビリティ・イノベーションの社会的受容
ー技術から人へ，人から技術へー　上出寛子編著
A5・276頁・定価3520円　自動運転やMaaSをはじめ，移動支援の技術の進歩と人・社会の調和について，心理学，哲学，交通工学などから分析，学際的な視座を提供する。社会的受容における多様性，信頼や人々の幸福との関係についても議論する。

今日、僕の家にロボットが来た。
ー未来に安心をもたらすロボット幸学との出会いー　上出寛子，新井健生，福田敏男編著
四六・208頁・定価2420円　わたしたちに安心をもたらすロボットとは？　人型手伝いロボットと暮らすヒロトとその家族の物語を例にとりながら，工学技術（自然科学分野）と心理学・社会学・哲学・仏教哲学など人文学的分野両方の視点を交えて考える。

未来思考の心理学
ー予測・計画・達成する心のメカニズムー　G．エッティンゲンほか編　後藤崇志，日道俊之，小宮あすか，楠見　孝監訳
A5上製・720頁・定価11000円　目標実現のための心の仕組みを人に固有の「将来を模索し判断する力」を切り口に解説。認知，社会，教育，健康等の分野にも展開。

「隠す」心理を科学する
ー人の嘘から動物のあざむきまでー　太幡直也，佐藤拓，菊地史倫編著
A5・272頁・定価3850円　隠す心理をテーマに，社会心理学・発達心理学・認知心理学・生理心理学・動物心理学の領野から12の話題を厳選し，紙上討論を巻末に収載。心を科学的に探究する面白さへと誘う書。

産業・組織心理学講座　第3巻　組織行動の心理学
ー組織と人の相互作用を科学するー　産業・組織心理学会企画　角山　剛編
A5・256頁・定価3410円　本巻では，産業・組織心理学の領域のうち「組織行動部門」を扱う。組織行動研究の位置づけと動向を概観した後，集団のダイナミックスや意思決定，リーダシップなどの重要テーマを扱う。組織開発の手掛かりも提供。

産業・組織心理学講座　第1巻　産業・組織心理学を学ぶ
ー心理職のためのエッセンシャルズー　産業・組織心理学会企画　金井篤子編
A5・280頁・定価2640円　学会設立35周年記念講座シリーズ全5巻刊行開始！　本巻では，産業・組織心理学の目的や歴史等の基礎を解説，更に人事，組織行動，作業，消費者行動にまつわる研究分野を概観，その全体像を示す。

数式がなくてもわかる！Rでできる因子分析
松尾太加志著
A5・172頁・定価2530円　因子数の決め方，因子軸の回転，出力結果の詳細な見方，解釈の仕方，変数の取捨選択，主成分分析や共分散構造分析との違いといった実践知識を，豊富な図表やRでの実行例とともに解説。試行錯誤を重ねる分析の流れを丁寧に追う。

たのしいベイズモデリング2
ー事例で拓く研究のフロンティアー　豊田秀樹編著
A5・240頁・定価2970円　自由なモデリングを可能とするベイズ統計では，心理学を含め，人間行動を扱う学問領域においてもその広がりを見せている。今回は，心理に限らず，工学やビジネスなど，より幅広い領域の関心を惹きつける内容構成。

心理学って面白そう！
どんな仕事で活かされている？

シリーズ　心理学と仕事〔全20巻〕完結！

シリーズ 監修　太田信夫
●A5判・148～232頁・定価2200～2530円

1　感覚・知覚心理学	2　神経・生理心理学	3　認知心理学	4　学習心理学	5　発達心理学
6　高齢者心理学	7　教育・学校心理学	8　臨床心理学	9　知能・性格心理学	10　社会心理学
11　産業・組織心理学	12　健康心理学	13　スポーツ心理学	14　福祉心理学	15　障害者心理学
16　司法・犯罪心理学	17　環境心理学	18　交通心理学	19　音響・音楽心理学	20　ICT・情報行動心理学

心理学概論
◎Well-Being な生き方を学ぶ心理学
大坊郁夫 編
持続可能性を高め、よく生きるための心理学入門テキスト。 2970円

はじめての発達心理学
◎発達理解への第一歩
古見文一・西尾祐美子 編
基礎知識を解説し、Q&Aを交えながら発達の謎に迫る。 2420円

心の専門家養成講座⑤
心理臨床実践のための心理学
金井篤子 編
公認心理師必携の概論書。 2860円

異文化接触の心理学
◎AUC-GS学習モデルで学ぶ文化の交差と共存　田中共子 著
エクササイズを通したアクティブラーニング形式で段階的に学ぶ。 2530円

グラウンデッド・セオリーの構築【第2版】
キャシー・シャーマズ 著／岡部大祐 監訳
論文執筆の多くの事例と内容を盛り込み詳説した増補版。 6050円

なぜあなたは国際誌に論文を掲載できないのか
◎誰も教えてくれなかった本当に必要なこと
加藤 司 著
全ての悩める研究者へ。 2970円

主体的に学ぶ発達と教育の心理学
髙村和代・安藤史高・小平英志 編
教職課程コアカリキュラム対応テキスト。課題・テストも掲載。 2530円

社会的子育ての実現
◎人とつながり社会をつなぐ、保育カウンセリングと保育ソーシャルワーク
藤後悦子 監修／柳瀬洋美 他編著
支援に必要な知識とは。 2640円

心の専門家養成講座⑥
医療心理臨床実践
◎「こころ」と「からだ」「いのち」を支える
森田美弥子・金子一史 編
医療分野での心理的支援。 3300円

新版 対人コミュニケーション入門
藤田依久子 著
心理学実験や基本理論を平明に説明した、好評書の再改訂版。 2200円

やってみよう！実証研究入門
◎心理・行動データの収集・分析・レポート作成を楽しもう
古谷嘉一郎・村山綾 編 2860円

ファシリテーションとは何か
◎コミュニケーション幻想を超えて
井上義和・牧野智和 編著
日本における総決算の書。 2640円

教師になる人のための学校教育心理学
越 良子 編
学習指導要領の変遷から来し方を学び行く末を見通す。 2970円

家族心理学
◎生涯発達から家族を問う
相良順子 編
個人の発達と家族の発達の関わりをワークを取り入れ解説。 2530円

心の専門家養成講座⑨
福祉心理臨床実践
◎「つながり」の中で「くらし」「いのち」を支える
永田雅子・野村あすか 編
福祉における心理支援。 3300円

利他行動の促進・抑制
◎評判への関心に基づく検討
河村悠太 著
評判と利他行動が社会的規範によって調整される姿を描く。 5500円

動かして学ぶ！はじめてのテキストマイニング
◎フリー・ソフトウェアを用いた自由記述の計量テキスト分析
樋口耕一・中村康則・周景龍著 2420円

ついスマホに頼ってしまう人のための日本語入門
堀田あけみ・村井宏栄 著
作家歴40年のプロと日本語学者が教える、日本語を書く秘訣。 1980円

これからの教職論
◎教職課程コアカリキュラム対応で基礎から学ぶ
大家まゆみ・本田伊克 編
初学者向けに易しく解説。 2530円

通常学級で活かす特別支援教育概論
柏崎秀子 編
様々な発達段階の子どもに支援対応するための具体的アイディア。 2200円

心の専門家養成講座⑪
危機への心理的支援
窪田由紀 編
災害、事故、暴力などに遭遇した個人や集団への支援を解説。 3300円

刑事司法制度改革についての法心理学的研究
中田友貴 著
種々のバイアスに焦点を当て、法心理学の立場から提言する。 7150円

社会調査のための計量テキスト分析
樋口耕一 著【第2版】
研究事例のレビューを大幅に増補し、KH Coder 3 に対応。 3080円

伝わる！ロジカル文章術
◎レポートの質を極める
酒井浩二 著
考えを伝えるための作法。 1650円

ナカニシヤ出版
TEL 075-723-0111
FAX 075-723-0095
〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15
http://www.nakanishiya.co.jp/
〔税込価格〕

グルダイ学会関係連絡先

本学会では、事務支局を中西印刷株式会社に開設しております。入退会、住所・所属等の変更、会費納入、機関誌等の未着・メールマガジンなどの配信先の登録・変更・停止等の連絡先として、事務支局である中西印刷株式会社までご連絡ください。

また、論文投稿先・審査書類送付先も中西印刷株式会社となっております。詳細は下記をご覧ください。各種お問い合わせの具体的な連絡先は以下の通りです。

事務務支局【入退会、住所・所属等変更、その他お問い合わせ先】

日本グループ・ダイナミックス学会 事務支局
〒 602-8048　京都市上京区下立売通小川東入る
中西印刷　（株）　学会フォーラム内
TEL　：　075-415-3661　　FAX　：　075-415-3662
E-mail：　jgda@nacos.com

学会運営・対外業務関連

日本グループ・ダイナミックス学会本部事務局
〒 112-8606　東京都文京区白山 5-28-20
東洋大学社会学部　尾崎由佳 研究室
TEL　：　03-3945-4479
E-mail：　sec-general@groupdynamics.gr.jp

投稿論文・学会誌編集関連【論文投稿先・審査書類送付先】

日本グループ・ダイナミックス学会 編集事務局
〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入る
中西印刷　（株）　営業部編集校正課内
TEL　：　075-441-3155　FAX　：　075-417-2050
E-mail：　jjesp-hen@groupdynamics.gr.jp

広報関連【ぐるだいニュースの編集・記事の投稿、メールマガジンへのニュース記事投稿、新刊案内や研究会案内等のニュース記事、書評、公募情報など】

〒811-1313　福岡市南区日佐 3-42-1
福岡女学院大学 藤村まこと 研究室（広報担当 常任理事）
E-mail：office@groupdynamics.gr.jp